

福井県六呂師高原における鳥類相

- 1998～2000年の標識調査結果より -

三原 学¹・大迫義人²

はじめに

福井県では、ガンカモ科鳥類調査、渡り鳥保全調査および鳥類標識調査によって定期的に鳥類相の調査が継続されており、現在までに、本県の奥越地方の和泉村では13目37科113種、大野市では13目35科107種、勝山市では13目33科87種の鳥類が記録されている(福井県高等学校教育研究会理科部会 1970, 福井県鳥獣保護センター友の会 1981, 1983, 1986, 福井県 1989, 福井県自然保護センター 1993, 1994, 1995a, 1995b, 1996, 1999, 大迫・三原 2001)。これらは福井県内で確認された種数のそれぞれ35.6%と33.8%および27.4%である(福井県自然環境保全調査研究会鳥獣部会 1998)が、調査方法が観察のみであることが多く、低木林や藪に潜行する種が見逃されている可能性がある。また、同一箇所において、調査は数日しか為されず継続されていないため、季節的に移動する種の見逃しがあると考えられる。

大野市六呂師高原は、福井県東部の白山山系の麓に位置し、山地性から亜高山性の鳥類相が予想され、確実に種を判定できる捕獲によって1991年より周年に亘り調査が継続されており、計3目14科39種の鳥類が記録されている(大迫 1992, 1994, 大迫・三原 1998)。1998～2000年にも同様の調査を行ない、新たな種も記録されたので報告する。

調査地と方法

調査は、1998年4月10日から12月18日までの9日間、1999年1月19日から11月19日までの15日間、2000年2月13日から12月23日までの27日間の計41日間、福井県大野市六呂師高原にある神明山(36°01'N, 136°35'E, 標高596m)でカスミ網を用いて行なっ

た。調査地の環境や植生については、大迫(1992)を参照されたい。主に頂上付近にあるアカマツ林の林縁またはコナラが優占する斜面の既設の道に、36mmメッシュ、長さ12mのカスミ網を1枚～10枚設置して調査を行なったが、2000年4月24日～5月5日には、山頂北側の標高約520m付近にある、林床にササ類が優占するコナラ林でも行なった。捕獲された鳥類には、個体番号が刻印された環境庁(現:環境省)の金属リングを右足に装着し、種名、性別、年齢を記録したのち放鳥した。

結果と考察

1. 確認種

確認された鳥類とその学名は表1に掲載した。1998年に3目8科12種96羽、1999年に3目13科18種108羽、2000年に2目12科33種247羽の鳥類を捕獲・標識して放鳥した(表1)。調査地では、それまでに3目14科39種の鳥類が確認されているが(大迫 1992, 1994, 大迫・三原 1998)、今回新たにカワセミ、ツミ、コマドリ、ノゴマ、コルリ、ヤブサメ、サメビタキの生息または通過が確認された。この内、ノゴマは北海道以北で繁殖し、福井県下では春・秋の渡りの時期にのみ少数が確認されるのみで、奥越地方での観察例は少ない種である(福井県自然環境保全調査研究会鳥獣部会 1998)。しかし、2000年4月24日～5月5日に計6羽が山頂北側のコナラ林において捕獲・放鳥されたことより、さらに多くの個体が当地を通過している可能性が示唆される。また、コマドリとコルリは深い低木やササなどの下草の茂った林に生息するため(樋口ほか 1997)、さえずり以外での確認が難しく、繁殖地でない当地では観察されにくい種

福井県自然保護センター研究業績 第67号

1. 〒912-0131 福井県大野市南六呂師46-7, E-mail mihara@mitene.or.jp

2. 福井県自然保護センター 〒912-0131 福井県大野市南六呂師169-11-2

現住所: 姫路工業大学自然・環境科学研究所 〒668-0814 兵庫県豊岡市祥雲寺128 コウノトリの郷公園内,
E-mail yosako@hyogo-c.ed.jp

である。

初放鳥種ではないが、2000年6月3日には、抱卵斑のあるコガラが1個体捕獲された。この個体の腹部は、綿羽がなくなり、皮膚の色も赤味を帯びていたため、発達した抱卵斑であったと考えられる(写真1)。本種は低山帯上部から亜高山帯にかけて生息し(中村・中村 1995)、当地のような低山帯での繁殖はまだ確認されていなかった(大迫・三原 1998)。しかし、抱卵を示唆する抱卵斑(山階鳥類研究所標識研究室 1991)が観察されたことより、当地およびその周辺で営巣していた可能性が高い。

2. 再捕獲および生存日数

今回の調査では、リカバリー(Rc:初放鳥地から5km以上離れた場所による再捕獲)は記録されず、当地を渡り時期に通過する、あるいは夏季、冬季に渡来する鳥類の移動経路を示唆する情報は得られなかった。しかし、リピート(Rp:初放鳥日から6ヶ月未満で、初放鳥地から5km未満の場所での再捕獲)やリターン(Rt:初放鳥日から6ヶ月以上を経て、初放鳥地から5km未満の場所で再捕獲)は、計10種84個体で記録された(表2)。リターンの中には経過日数が500日を越えて再捕獲されたものもあり、最長経過日数は、コゲラで1,958日、ヤマガラで2,553日、シジュウカラで1,467日、カケスで1,369日であった(表3)。当地での調査から得られた最長経過日数は、それまでにコゲラで723日、ヤマガラで1,504日、



写真1. 6月3日に捕獲された抱卵斑コガラが確認された。

シジュウカラで1,514日が記録されていた(大迫・三原 1998)が、今回の記録で、コゲラで1,235日、ヤマガラで1,049日更新した。約7年の生存が確認されたこのヤマガラは、初放鳥されたのが1991年12月であり、少なくともその年の春～夏季に孵化しているので、さらに数ヶ月以上長く生存していたことになる。一方、シジュウカラは再捕獲された個体は多かったにもかかわらず、標識後の経過日数の長い個体は少なく、500日を越えたものはわずか1個体のみであった。近縁である両種の経過日数に、差が出たことは注目に値する。

謝 辞

古園由香, 中津弘, 樋上真紀, 西垣正男, 廣瀬志保, 宇野竜司, 塚田信代さんには調査に協力して頂いた。また、福井県自然保護センターの職員には調査を行なうにあたって配慮して頂いた。ここに記して感謝する。なお、この調査は、一部、福井県自然保護センター自然観察の森周辺環境調査事業費を受けて行なったものである。

要 約

福井県大野市六呂師高原において、1998年～2000年の計41日間、鳥類の標識調査を行なった。1998年には4～12月の9日で3目8科12種96羽、1999年には1～11月の15日で3目13科18種108羽、2000年には2～12月の27日で2目12科33種247羽を捕獲・標識した。

当地では1991年から継続して調査されていたが、新たにカワセミ、ツミ、コマドリ、ノゴマ、コルリ、ヤブサメ、サメビタキが確認され、計5目16科46種の鳥類が記録されたことになる。また、抱卵斑のあるコガラが捕獲され、当地およびその周辺での繁殖が示唆された。再捕獲された場合、リピートやリターンの例が多く、最長経過日数はコゲラで1,958日、ヤマガラで2,553日、シジュウカラで1,467日、カケスで1,369日であった。コゲラとヤマガラにおいては、当地におけるそれまでの記録を、それぞれ1,235日、1,049日更新した。近縁種であるシジュウカラに比べ、ヤマガラの方が生存日数の長い個体が多かったことは注目に値する。

表1. 1998～2000年に六呂師高原の神明山で捕獲された鳥類リストと放鳥数.

Table 1. List of species and number of birds banded on Shinmei Hill in Rokuroshi Highland.

目 Order	科 Family	種 Species	学名 Scientific name	放鳥数(再捕獲数)			
				1998年	1999年	2000年	総計
タカ目	タカ科	ツミ	<i>Accipiter gularis</i>		1		1
フッポウソウ目	カワセミ科	カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>	1			1
キツツキ目	キツツキ科	アオゲラ	<i>Picus awokera</i>			1	1
		アカゲラ	<i>Dendrocopos major</i>			1	1
		コゲラ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	1	9 (6)	1 (1)	11 (7)
スズメ目	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>		1	2	3
	モズ科	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>		1	1	2
	ミソサザイ科	ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>		1		1
	ツグミ科	コマドリ	<i>Erithacus akahige</i>			1	1
		ノコマ	<i>Erithacus calliope</i>			6	6
		コルリ	<i>Luscinia cyane</i>			1	1
		ルリヒタキ	<i>Tarsiger cyanurus</i>		7	1	8
		トラツグミ	<i>Zoothera dauma</i>			1	1
		クロツグミ	<i>Turdus cardis</i>		1	6	7
		アカハラ	<i>Turdus chrysolaus</i>			2	2
		シロハラ	<i>Turdus pallidus</i>			9	9
		ウグイス科	ヤブサメ	<i>Urosphena squameiceps</i>			1
	ウグイス		<i>Cettia diphone</i>		3	17 (4)	20 (4)
	メボソムシクイ		<i>Phylloscopus borealis</i>	1	1	3	5
	ヒタキ科	キビタキ	<i>Ficedula narcissina</i>	1		2	3
		オオルリ	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	2		3	5
		サメヒタキ	<i>Muscicapa sibirica</i>			1	1
	エナガ科	エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>		10	11 (2)	21 (2)
	シジュウカラ科	コガラ	<i>Parus montanus</i>	9	8 (1)	10 (3)	27 (4)
		ヒガラ	<i>Parus ater</i>		3	9 (1)	12 (1)
		ヤマガラ	<i>Parus varius</i>	45 (27)	23 (4)	64 (13)	132 (44)
		シジュウカラ	<i>Parus major</i>	28 (5)	32 (6)	41 (7)	101 (18)
	ゴジュウカラ科	ゴジュウカラ	<i>Sitta europaea</i>	1	2	3 (1)	6 (1)
	メジロ科	メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	2	1	3	6
	ホオジロ科	ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>			5	5
		カシラダカ	<i>Emberiza rustica</i>			1	1
		ミヤマホオジロ	<i>Emberiza elegans</i>			1	1
アオジ		<i>Emberiza spodocephala</i>			11 (2)	11 (2)	
クロジ		<i>Emberiza variabilis</i>		1	11	12	
アトリ科	アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>	2		15 (1)	17 (1)	
カラス科	カケス	<i>Garrulus glandarius</i>	3	3 (1)	2	8 (1)	
目数計				3 (1)	3 (2)	2 (2)	4 (2)
科数計				8 (1)	13 (3)	12 (7)	16 (8)
種数計				12 (2)	18 (5)	33 (10)	36 (11)
個体数計				96 (32)	108 (18)	247 (35)	451 (85)

表2. 再放鳥された種および個体数.

Table 2. Species and number of recaptured birds.

種名 species	総放鳥数 total	再放鳥数 recaptuer	
		Rp	Rt
コゲラ	9	5	2
ウグイス	20	4	
エナガ	21	1	1
コガラ	27	4	
ヒガラ	12	1	
ヤマガラ	132	32	13
シジュウカラ	101	10	7
ゴジュウカラ	6	1	
アオジ	11	2	
カケス	8		1

再放鳥数には、再々放鳥等も含まれる.

表3. 500日以上を経て再捕獲された個体.

Table 3. The durations before banded birds were recaptured after 500 days.

種名 Species	足輪番号 Ring number	初放鳥日 Capture date	再捕獲日 Recapture date	経過日数(日) Duration(days)
コゲラ	3B-17257	1994年 7月 5日	1999年11月14日	1,958
ヤマガラ	2A-63333	1991年12月19日	1998年12月15日	2,553
	3B-17205	1992年 3月17日	1998年12月18日	2,467
	3B-17283	1995年 9月 9日	2000年 3月30日	1,664
	3B-17279	1994年12月 7日	1998年12月18日	1,472
	3B-17296	1995年 5月19日	1998年12月15日	1,306
	3B-17307	1997年12月21日	2000年 3月30日	830
	3B-17323	1998年12月15日	2000年12月23日	739
	3B-17315	1998年 7月23日	2000年 6月 4日	682
シジュウカラ	2B-40663	1995年11月12日	1999年11月18日	1,467
カケス	060-91319	1995年10月25日	1999年 7月25日	1,369

引用文献

- 福井県. 1989. 渡り鳥保全調査報告書～昭和61年度から63年度までの記録～ 10pp. 福井県.
- 福井県鳥獣保護センター友の会. 1981. 昭和55年度渡り鳥保全調査報告書. 17pp. 福井県.
- 福井県鳥獣保護センター友の会. 1983. 渡り鳥保全調査報告書～昭和56年度及び57年度の記録～ 8pp. 福井県.
- 福井県鳥獣保護センター友の会. 1986. 渡り鳥保全調査報告書～昭和58年度から60年度までの記録～ 10pp. 福井県.
- 福井県高等学校教育研究会理科部会. 1970. 九頭竜川上流域の生物調査 1.和泉村水没地域の生物調査報告: 123-136.
- 福井県自然保護センター. 1993. 渡り鳥保全調査報告 - 1989年度・1990年度 - . Ciconia 2:1-13.
- 福井県自然保護センター. 1994. 渡り鳥保全調査報告 1991年度 - 都市鳥の生息状況 - . Ciconia 3:1-7.
- 福井県自然保護センター. 1995a. 渡り鳥保全調査報告 1992年度 - 鳥獣保護区の鳥類相 - . Ciconia 4:1-8.
- 福井県自然保護センター. 1995b. 渡り鳥保全調査報告 1993年度 - 鳥獣保護区の鳥類相 - . Ciconia 4:9-16.
- 福井県自然保護センター. 1996. 渡り鳥保全調査報告 1994年度 - 鳥獣保護区の鳥類相 - . Ciconia 5:1-7.
- 福井県自然保護センター. 1999. 渡り鳥保全調査報告 1997年度 - 鳥獣保護区・休猟区の鳥類相 - . Ciconia 8:1-8.
- 福井県自然環境保全調査研究会鳥獣部会. 1998. 福井の鳥とけものたち. 222pp. 福井県.
- 樋口広芳・森岡弘之・山岸哲 編. 1997. 日本動物大百科 第4巻 鳥類 . 180pp. 平凡社, 東京.
- 中村登流・中村雅彦. 1995. 日本野鳥生態図鑑. 301pp. 保育社, 大阪.
- 大迫義人. 1992. 福井県六呂師高原における鳥類相 - 1991～1992年の秋冬期の標識調査結果より - . Ciconia 1:13-21.
- 大迫義人. 1994. 福井県六呂師高原における鳥類相 - 1992年度・1993年の標識調査結果より - . Ciconia 3:39-41.
- 大迫義人・三原学. 1998. 標識調査から得られた鳥類の外部計測値, 捕獲時期および生存日数. Ciconia 7:7-12.
- 大迫義人・三原学. 2001. 福井県大野市平家平の鳥類相とその保全. Ciconia 10:15-24.
- 山階鳥類研究所 標識研究室. 1991. 鳥類標識マニュアル. 135pp. 山階鳥類研究所, 千葉.

Avifauna of Rokuroshi Highland, Fukui IV
- Banding results in 1998-2000 -

Manabu Mihara¹ and Yoshito Ohsako²

Avifauna on Shinmei Hill in Rokuroshi Highland, eastern Fukui, were studied by mist-net capturing over 41 days from 1998 to 2000. A total of 96 birds of 12 species were banded over 9 days from April to December 1998. A total of 108 birds of 18 species were banded over 15 days from January to November 1999. A total of 247 birds of 33 species were banded over 27 days from February to December 2000. The Common Kingfisher, Japanese Lesser Sparrow Hawk, Japanese Robin, Siberian Rubythroat, Short-tailed Bush Warbler, and Sooty Flycatcher were captured for the first time, so the number of species banded in Rokuroshi Highland now totals 46 species (belonging to 16 families in 5 orders). A Willow Tit with an incubation patch was captured, indicating that this species bred around Rokuroshi Highland. The majority of recaptured birds were cases of "repeats" and "returns". The longest durations between recapturing banded birds were 1,958 days for Japanese Pygmy Woodpeckers, 2,553 days for Varied Tits, 1,467 days for Great Tits, and 1,369 days for Jays. These records renewed the previous records of Japanese Pygmy Woodpeckers (1,235 days) and Varied Tits (1,049 days). It is remarkable that records of longevity were greater for Varied Tits than for Great Tits.

1. Minamirokuroshi 46-7, Ono-shi, Fukui 912-0131, Japan. E-mail: mihara@mitene.or.jp
2. Fukui Nature Conservation Center. Minamirokuroshi 169-11-2, Ono-shi, Fukui 912-0131, Japan.
Present Address: Institute of Natural and Environmental Sciences, Himeji Institute of Technology.
c/o Hyogo Prefectural Homeland for the Oriental White Stork, Shounji 128, Toyooka-shi, Hyogo
668-0814, Japan. E-mail: yosako@hyogo-c.ed.jp

